



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第115号

2013.8.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

ー八幡湿原おさんぽツアーについて

活動報告

- ー霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会
- ーブツポウソウの観察会
- ー夏休み親子観察会
- ーカワシンジユガイ探検隊
- ー千町原 夏の保全活動

観察会案内

- ー霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）
- ーサツキマス保全の試み（1）産卵床作り

お知らせ

●八幡湿原おさんぽツアーのお知らせ

8月より、湿原を歩くツアーを始めました。
ガイドさんが在館する日に開催し、当日参加のみの受け付けとなっております。通常は、週末を予定しています。

午前の部 10:30

午後の部 14:00

参加費：100円

定員：10名

服装：歩きやすく肌の露出が少ない服装（長ズボン・靴がのぞましい）・タオル・飲み物

湿原を中心に、一時間ほど歩きます。「芸北トレッキングガイドの会」のガイドさんから、いろいろなお話を聞きながら、ゆっくり散策ください。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時：2013年6月29日(土) 9:30

講師：大竹邦暁・松田賢・和田秀次

夏を迎えつつある霧ヶ谷湿原で、いろいろな生き物を観察しました。今回は、昆虫担当の松田先生、植物担当の和田先生と私(大竹)の3人で、虫と草花に的を絞った編成です。

今年も自然館を出発してすぐのススキ草原で、たくさんのウラギンヒョウモンを見つけて足を止めました。草刈りされた草原に生えるたくさんのスミレが幼虫の食草に、そのまわりのミヤコイバラ、ノアザミなどが成虫の吸蜜植物になって、多くの個体を維持しているのでしょう。

草原の入り口のウツギでは、大きなミヤマカラスアゲハが吸蜜していて目を引きました。幼虫は、近くにもあるキハダやイヌザンショウの葉を食べるそうです。

草原の奥に進むと、周りの樹林からハルゼミの合唱です。その中に疎らに「ショウキン・ショウキン・ショーケケケケケ」と混じるエゾハルゼミの音が聞こえました。(“聞きなし”は松田先生に拠ります。)

草原がカラコギカエデやカンボクからなる灌木林に移る辺りから、水口谷湿原むなくとだにに入りました。この湿原は、ずっと人の手が加えられないまま植生遷移が進み、今では高さ15mのハンノキ林となっています。水浸しの地面からまっすぐな幹がスッと天井まで生えそろう、疎らなヨシやハンカイソウ、タンナトリカブトが生える薄暗い林床には、アサヒナカワトンボと、木漏れ日の中にヒロシマサナエが縄張りを張っていました。

霧ヶ谷湿原では、クサレダマやサワヒヨドリ、トモエソウといったカラフルな花は、少し時期が早くつぼみでした。一方、マアザミのロゼットやアブラガヤに囲まれた明るい水たまりにはシオヤトンボ、細流にはゴウソヤオニスゲにハッチョウトンボ、グンバイトンボが集まり、小さな池にはフトヒルムシロや希少種のナガエミクリが独特な花を咲かせ、モリアオガエルの卵塊が転々と見られる、という様々な湿原の姿に応じた生き物を目にしました。圧巻だったの

はモリアオガエルの卵塊の数で、池のあちこちに20個もありました。

帰りは時間に追われつつ、道すがら見つけたヤマナメクジやアオダイショウを冷やかしながら道を急ぎました。

まとめの時間は、再生後に混沌としていた霧ヶ谷湿原の中に、様々な生態系が形作られてきたことを振り返って解散となりました。秋の観察会では、また、新しい生態系が見つかるかも知れません。楽しみです。[おおたけくにあき]



湿原へ向かう途中でも、たくさんの動植物が観察された。



車道で見つけたアオダイショウ。



オカトラノオはつぼみの状態。開花までもう少し。



堤の近くで一休み。木陰と沢のお陰で、日中でも涼しく過ごせる。



白く、大きく広がった中脚と後脚が特徴的なゴンバイトンボ。

【みなさんの印象に残った物】

「チョウがたくさんいた」「和田先生の話で、湿地を再生させたら埋土種子が発芽し、自然と湿地の植生に変化していったということが、興味深かったです」「ヒメシジミ、ゴンバイトンボなど、めずらしい虫を多く見れた。アオダイショウを初めて近くで見た」「植物、昆虫、鳥とはば広く勉強できた」「Identifying different insect species in wetland ecosystem」「蛇をさわられたこと、ヤマナメクジを持ったこと」「オオミズアオの幼虫。湿原の再生はなかなかむずかしいのだと思いました」「アサヒナカワトンボのオスとメスの違い。マムシグサの性別の見きわめについての話(2)」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「花が少しすくなかったです」「植物もそうですが、カエルの卵やゴンバイトンボや、他にもふだん見れない生きものがたくさん見られました」「天気よく、さわやかに観察できて楽しかった(2)」「とても充実した観察会でした」「昆虫の観察はほとんどしたことがなかったのですが、新鮮で楽しかったです」「got more interesting information about some rare insect species and also some plant species」「普段は、虫や植物の名前も分からず見ているだけでしたが、先生方の解説を聞かせていただくことができて、勉強になりました」「色々な植物やトンボなどを見ることができ、解説も分かりやすく、すごく楽しめました。ありがとうございました」



白い花を咲かせるササユリ。顔を近づけると、強い香りを出しているのが確認できた。

観 察 会 報 告

● ブッポウソウの観察会

開催日時：2013年7月15日（月・祝）9:30

講師：上野吉雄・松田賢

芸北ではもうお馴染みになった夏鳥、ブッポウソウの観察会を行いました。呉、浜田、萩など遠くからも参加いただき、24人と大勢での観察会になりました。

フィールドに出る前に、二人の先生からブッポウソウについての講義を受けました。上野先生は、主に繁殖や育雛に関わる行動について、松田先生はブッポウソウの食性についてのお話でした。西日本のブッポウソウは、木の電柱に巣をつくる習性を獲得したものの、電柱がコンクリートに変わっていったために巣を作ることができなくなったそうです。越冬地である東南アジアの森林が開発されて、環境が変わったことも減少の要因として考えられるそうです。こうした中、広島県では巣箱の設置によって繁殖を助ける活動が成功し、全国的に見ても有数の繁殖地になっているそうです。

室内でのレクチャーをしっかりと聞いてから、巣箱を設置している場所を2箇所、見学しました。いずれの場所も、巣箱での育雛が確認されている場所です。1箇所目は駐車場の中に設置された巣箱です。親を刺激しないように、広い駐車場の端で見学しましたが、なかなか親が現れません。やはり、大勢の人を警戒しているようです。ほどほどで諦めて、次のポイントに向かいました。事務局が最後に出発したのですが、みんなが居なくなるとすぐに、親鳥が帰ってきました。やはり、警戒して待っていたようです。

2箇所目は、観察場所と巣箱の間に水田があり、かなり距離がある場所です。ここでは、巣箱の周りにも、そして反対側の山にも、ブッポウソウの姿を見付けることができました。参加者からは、濃紺の体と真っ赤なくちばしを見て「きれい!」と感激の声が上がっていました。しばらく観察していると、巣箱に餌を運ぶ行動を2回確認できました。親が巣箱に留まるのは、本当にわずかな時間でした。

最初のポイントではどうなることかとヒヤヒヤしましたが、採餌行動までしっかりと観察で

きました。また来年、巣立った雛が帰ってきてくれるといいですね、という言葉で観察会を終えました。[しらかわかつのぶ]



はじめに、室内でレクチャーを受けた。子どももたくさん。



ブッポウソウは、主にコウチュウを食べる。



「ブッポウソウが食べる昆虫」の標本を、松田先生が持ってきて下さった。



最初の観察ポイント。ジッと見守るけれど（見守るから？）親鳥は現れなかった。



巣箱近くの電線にとまる親鳥。くちばしの赤がよく目立つ。



2 番目の観察ポイント。空き家の近くに掛けられている巣箱。ここではしっかりと姿を確認できた。



巣箱に泊まる直前の親鳥。羽がキレイ！

【みなさんの印象に残った物】

「食べ物をくわえて飛んでいったこと」「写真ではなく、本物を見られた。高価なフィールドスコープだと見え味も違うものなんですね」「何度もきれいなブッポウソウがみれた事(3)」「ブッポウソウのくちばしと足が赤くてとまっている姿可愛らしかったこと」「ブッポウソウのつがい」「私達にとって臭いカメムシも食べること」「ブッポウソウの飛んでいる姿が美しかった(6)」「生態などがわかってよかった」「講義の中で渡り鳥が星座を読むことができるなどの特性についての説明」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「かわいいところがたくさんあっておもしろかったです」「観察できる場所まで連れてっていただいてありがとうございました」「ありがとうございました」「色々な説明をしていただきブッポウソウという鳥がわかった」「美しい鳥を見ることができ、楽しかったです(5)」「飛ぶ姿がきれいでした」「巣箱に出入りするのが見られてよかった」「有意義なイベントでした」「観察前のお話でいろいろ知識を得られたのがよかった(2)」「初めてブッポウソウを肉眼で見て感激した(2)」

観 察 会 報 告

● 夏休み親子観察会

開催日時：2013年7月21日（土）9:30
講師：岩見潤治・佐久間智子

子ども達の待ち望んでいた夏休みになりました。高原の自然館では親子で水生昆虫を観察できる観察会を実施しました。

講師は岩見先生、佐久間先生です。参加者は25名と多く、にぎやかに開催されました。

観察会の場所は霧ヶ谷湿原の上流部の堰です。水がとっても冷たくて、きゃーきゃー言いながら川に入り、石の裏や、水の中にすむ水生生物を調査しました。

まず注意事項を聞き、佐久間先生より霧ヶ谷湿原の成り立ちを教えてくださいました。その後上流部と下流部に分かれ、場所によりいきものの違いがあるかどうかや、今までの記録の比較で、水生生物の分布も考えることとなります。いきものをつかまえるのも楽しいのですが、それを分類するのも楽しくて、じっくり観察するチャンスです。

岩見先生に詳しい説明をしていただきました。ムカシトンボのヤゴやヘビトンボの幼虫、石や葉っぱですみかをつくるトビケラの仲間など普段なかなか目にしないいきものに出会えて、大人も子どもも盛り上がりました。

岩見先生によると、今回確認できた種は魚やカエルも含めると27種だったそうです。昨年までのデータと比較すると、下流部の種数が増加傾向にあることから、霧ヶ谷湿原の湿地化が進んでいるように感じられる、とのお話もありました。

最後に生態系についてのお話もありました。自分が気に入ったいきものの絵をコップに書いて、並べてタワーを作ります。もし、川の環境が壊れて、ひとつのいきものがいなくなったら・・・と下段のコップを抜き取ります。そうすると、どうなるか？ 子ども達はしっかりと考えているようでした。芸北の山の水が川に集まり、最後には瀬戸内海に流れでる、という大きなお話を岩見先生がしてくださいました。

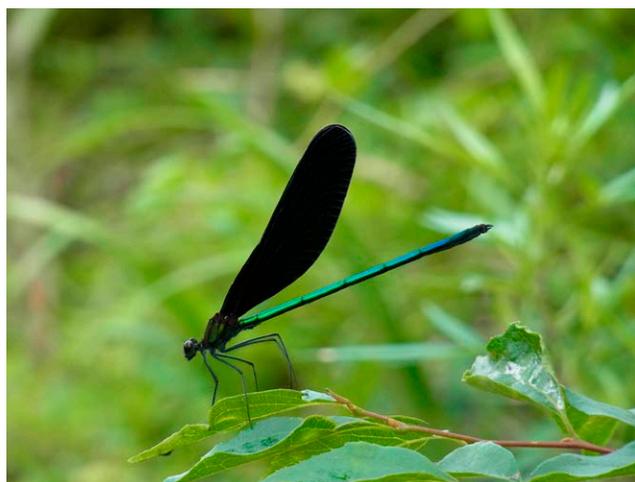
小さな小さいいきものを観察したことが、わずかでも自然環境への関心につながってくれたらと思います。[このやよい]



霧ヶ谷湿原について説明をされる佐久間先生。



岩見先生から諸注意を受ける。怪我をしないよう気をつけよう。



川辺にとまっていたハグロトンボ。



木の枝についている生き物を探す。



積み重ねた紙コップを生態系に見立てて解説をされる岩見先生。



ゲンジボタルの幼虫。

【みなさんの印象に残った物】

「いろいろな水の生き物がいておどろきました (3)」「ホタルの幼虫が見れてよかった」「めずらしい生き物も見られて良かったです」「川の生き物を捕まえたこと (7)」「普段は見られない生き物が見れた」「生きものを見つけては、大人も子どものように楽しんでいる様子が印象に残りました」「紙コップに生き物の絵をかいて自然の説明してくれて分かりやすかったです (2)」「ムカシトンボがとれたところ」「生き物の種類が多かったこと」「川の石をひっくり返すだけで、たくさんの生物が観察できました」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「ずっと虫とりあそびをしたい気持ちです」「いろいろな水中昆虫が見れた」「普段経験できない貴重な体験ができました」「楽しかったです (5)」「子ども達もイキイキと楽しんでいました。自然再生を実感できる素晴らしい取り組みだと思います (2)」「絶滅危惧種を見れてうれしかった」「来て良かったです (2)」「田舎にいても、なかなか生物について勉強することがないので、良い体験ができました」「川の生き物をさがしたのが楽しかった」「またやりたい」「小学生の子どもでしたが、同定作業ができて、とても良かったです。小学生でもできるものですね」「川の水がためたかったです」



見つけてきた生き物達をシャーレに移す。移した後は好きな生き物を紙コップに描いた。

観 察 会 報 告

● カワシンジュガイ探検隊

開催日時：2013年7月28日（土）9:30

講師：内藤順一

早朝からお天気の心配がされたカワシンジュガイ探検隊ですが、内容を一部変更し、開催されました。

今回はひろしまNPOセンターとの共催で、全国47都道府県で開催されているSAVEJAPANプロジェクトの一つとなります。

芸北文化ホールに集合し、雨がひどくならないうちに、講師の内藤先生の案内で、自生地を見学に行きました。この場所は標高650メートルで、川の上流部です。川の奥には家もほとんどありません。ここから下流部へ流れる川のこう配がゆるやかで、カワシンジュガイの生息に向いているとのことでした。

川に降りるとすぐ脇の方にカワシンジュガイが見えました。地元では「立ちつ貝」といわれるように、体の半分ほどを砂に埋めた姿です。他の地点でも3個体見つけました。思ったより大きな貝に驚き、参加者は大きさを手で確かめていました。藤先生が網をひとつふると、アブラボテも捕れました。アブラボテのメスは長い産卵管をカワシンジュガイにさしこみ、産卵するそうです。実物を見ながら解説していただくとよりいっそう様子がわかりました。雨が降り続け、水温も低めだったので、安全を考慮し、早めに川からあがりました。

その後室内で、カワシンジュガイの生態について学びました。カワシンジュガイの生活史、生息地や分布、各地方での保護や調査の様子など、長年研究をされている内藤先生ならではの知見に基づく、楽しいお話を聞くことができました。

カワシンジュガイの稚貝の姿や、アマゴについたグロキジウム（幼生）の様子など、研究から分かったことを、資料やビデオを使い、わかりやすく解説してくださいました。中でもアマゴの放流をし、カワシンジュガイの保護をされているお話は、感激しました。

これからもカワシンジュガイの姿がなくなることがないように、と思いました。

少人数での開催だったので、カワシンジュガ

イをしっかり観察したり、標本を使った丁寧な解説をしていただきました。

教えていただいたことをしっかり身につけて、滝山川本流でのカワシンジュガイの探検を来年に期待したいです。[このやよい]

※今回の観察会は、広島県および北広島町に許可を得て行ないました。



今回はSAVEジャパンプロジェクトの一つとして開催された。



当日の天気は雨。予定を変更して、先に川へ行くことになった。



カワシンジュガイを発見。川底に立っている姿を観察する。



カワシンジュガイの標本。採取された年と場所が記されている。



実際に持ってみるとかなり大きいことが分かる。



川での観察の後、生態についての講義を受ける。



アブラボテも見つかった。

【みなさんの印象に残った物】

「カワシンジュガイが努力によって増えたということ」「生息域が少ない事」「子どもが積極的に川に入れた」「カワシンジュガイの大きさと年齢が見た目とは違うこと。狭い場所にけっこうたくさんいること（保護の成果ですね）」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雨がふったら、またの機会をたのしみになればいい。またやって下さい」「大変勉強になりました」「天候不良で残念」「雨で川での活動ができなかったのは残念ですが、本物を見ることができて良かったです」

観 察 会 報 告

● 千町原 夏の保全活動

開催日時：2013年8月3日（土）8:30

日本各地で水害のニュースが駆け巡る8月となりました。ここ八幡もお天気が悪く、草刈りの開催も心配されましたが、当日は曇り。蒸し暑くなりそうな天候です。とはいえ、標高800メートルの高原とあり、市内から来られた方より「涼しい！」との声が多く聞かれました。

山麓庵に集合し、ゼッケンを受け取り自分の班を確認します。今回の参加者は38名。いつもより少ないですが、7班に分かれました。チェーンソーと草刈り機を使用するため、特に安全管理の説明は力が入ります。みなさん真剣な表情で聞き入ってくださいました。その後いよいよ作業にとりかかります。

今回はオオハンゴンソウの除去および、低木の伐採です。オオハンゴンソウは高木さんがトラクターでどんどん刈ってくださいます。刈った後は草集め班が集め、小積みにしていきます。

やぶになってる場所を草刈り機班が隊列を組んで刈っていきます。今回前さんより、草刈りのフォーメーションを実演していただきました。3人一班で安全にかつスムーズに刈れる方法を実践したところ、整然と草刈りが進んでいきました。

低木もチェーンソーで切り、整理しました。加えて、新たにはらっぱ・はらっぱ米を作っている坂井さんの畑に、刈った草を持ち出しました。これで秋に美味しい大根とお米が育つことでしょう。

午前中のわずかな時間でしたが、参加者みんなの力で草原を取り戻すための作業ができました。一方で、切った木、刈った草の用途・片づけ方法という大きな課題も残りました。

午後からは新たな試みとして、希望者16名で「千町原を語る会」を開きました。白川学芸員をファシリテーターとし、ワークショップの方法で会は進行されました。

「千町原の課題」「課題解決の方法」「千町原でかなえたい夢」「今日の感想」をグループで考えます。初参加の方からリピーターの方まで、様々な意見がでました。共通することは「千町原をよい草原に維持したい」ということです。

この思いを持ちながら、息の長い活動にしていきたいな、と改めて考える機会となりました。

草原保全活動のお楽しみは、草を刈って終わりではありません。刈った後を眺め、「よく刈ったなあ」と作業の範囲を眺めたり、草原のたたくまを感じたり、写真をとったり、ゆっくり歩いたり楽しみ方は多様です。

さあ、次は秋の草刈りです！[このやよい]



オオハンゴンソウの見事なお花畑。今日の作業はこの場所の草刈り。



新しい草刈り機をはりきって使う佐伯さん。



刈った草を集めて小積みにしていく。



今回の参加者で記念撮影！



休憩時間、刃の目立てをする二宮さんの手つきに見入る参加者。



お昼ご飯は山麓庵で。縁側が涼しい！



ブルーシートを使って草運び。



千町原の地図をみながら、未来を語る。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●霧ヶ谷湿原秋のいきもの観察会

開催日時：2013年9月15日(日) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・松田賢・和田秀次
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般：300円、賛助会員：100円
中学生以下：無料

日差しが柔らかい霧ヶ谷湿原で、今年最初の秋の訪れを体感してみませんか。夏の白や黄色の花に代わって、風にたなびくススキの穂を背景に、赤や紫に湿原を彩るマアザミやツリフネソウなどの秋の花が、アカトンボの仲間と共に迎えてくれます。再生後間もない湿原は毎年変化を続けています。新しい生き物に出会えるかも知れません。

●霧ヶ谷湿原の植生調査(秋)

開催日時：2013年9月21日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信
和田秀次
準備：作業セット
参加費：無料

夏に続き、秋も植生調査を行います。皆さんの調査結果が、湿原を評価するデータになります。実りの時期ですので、植物の特長が分かりやすくなっています。観察会とはちがった視点で植物を見つめてみませんか。植物の見分け方や名前の由来を説明しながら調査をしますので、初心者の方もお気軽にご参加下さい。

連日の暑さのためか、水槽展示のカスミサンショウウオが水の中に潜っていることが多くなりました。水の中から顔を出してこちらを見つめる仕草はとて可愛らしいです。自然館の回りではマツムシソウやカワラナデシコ、ユウスゲなど、華やかな中に涼を感じる花々が咲いています。先日はアサギマダラにも出会えました。花の上で優雅に翅を広げた姿は、時間を忘れて眺めてしまうほどの美しさでした。(ありみつ)

●サツキマス保全の試み(1)産卵床作り

開催日時：2013年9月28日(土) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、長靴、雨具
定員数：30名
参加費：無料
※ 損保ジャパンの後援により実施します

北広島町八幡地区には聖湖からサツキマス降湖型が、10月上旬に還ってきます。しかし、集落には農業堰が多く、上流には行けません。そこで、溜まっている個体を採捕し、上流へ運びますが(10月6日に予定)、上流域は水量が少なく、水深が浅くなり、また、アオサギが狙っているために、なかなか産卵まで至らないのが現状です。今回、繁殖リスクを軽減させるために、産卵床を人力で整備します。自分の作った産卵床にサツキマスが産卵するかもしれませんよ。



記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info